

# 小林、無心のV 女子1500

④ 高校総体  
千葉

3日は千葉県総合スポーツセンター陸上競技場などで18競技があり、

陸上の女子1500メートルは日本選手権覇者の小林祐梨子（兵庫・須磨学園）が制した。女子1000メートルは2年生の高



女子1500メートルで優勝、ガッツポーズでゴールする小林祐梨子

橋頭木子（埼玉栄）が連覇。相撲個人は山口雅弘

## 持久力に磨き「次は記録」

陸上女子1500メートル

小林は、前だけを見て走った。タイムを刻む電光掲示板には目を向けず、場内アナウンスも聞かないように集中した。スタートから飛び出し、先頭で引く張る。800メートルで独走態勢に入ると、後続はついていけない。胸を張ってストライドを伸ばす、大きな走り。ゴールではにっこりと笑みを浮かべ、「絶対に優勝は譲れなかったの

（鳥取城北）が1年生で24年ぶりに高校横綱になった。弓道個人は男子が遠藤力也（滋賀・瀬田工）、女子は伊藤はるか（愛知・幸田）が制し

た。自転車3000メートル。人追い抜き予選で角令央奈（兵庫・日生学園三）が3分31秒108の高校新記録を出し、決勝に進んだ。

で良かった」と喜んだ。

6月の日本選手権を4分14秒55の高校新で制した。今大会も勝って当然の雰囲気の中、2日の予選では何度も後ろを振り返って周りを気にした。昨年優勝候補ながら「弱気になり、プレッシャーに負けた」と2位。この日は「前を見て走れ」と長谷川監督から注意され、「自信を持って笑顔で行こう」と気持ち切り替えた。

この1年で持ち前のスピード持久力に磨きがかかった。最初の400

メートルは昨年も今年も65秒前後。昨年は終盤バテて失速したが、今年最後に向かい風を受けながら4分15秒70と踏ん張った。先月6日には4分13秒80と高校記録を更新。続く15日の世界ユースでは2位に入った。「日本の中距離界はまだ世界で対応できていない。もっと

上を見て頑張りたい」。世界を見据えた言葉が自然と口をつく伸び盛りの2年生は、「来年は記録を狙います」と力強く宣言した。（柴田真宏）